

新泉小学校

新泉小学校の保護者の方々を対象に、下記の日程で「新泉・和泉地区における小中一貫教育校設置に関する意見交換会」を開催しました。

意見交換会や後日意見用紙にて寄せられた主な意見等を掲載しています。

《平成21年10月16日(金)10:00～》

- ① 出席者:PTA役員、町会、学校関係者
- ② 主な意見

- ・小中一貫教育校はよいことだと思うが、この地域に新泉小があったと感じられるような配慮をしてほしい。
- ・子供たちにより多くの人と触れ合う機会を与えるためには、やむを得ない。
- ・保護者の不安を払拭するためには、教員配置の充実や教育の質の向上が求められる。
- ・小学生と中学生では体格差があるので、施設面での安全管理が必要になる。
- ・新校舎建設に伴い工事用車両が通行する際には、近隣への配慮が必要である。
- ・地域の学校というのは、自分たちで作っていかなければならない。公立校は地域と一体となっているので、そこを充実させたい。

《平成21年10月25日(日)18:00～》

- ① 出席者:PTA役員、町会、学校関係者
- ② 主な意見

- ・今後、子供が増える可能性があると思うので、人口動態の推移を見守ることはできないか。
- ・現に子供を通わせている保護者からすると、「母校がなくなる」ということの方に関心が向いてしまう。
- ・子供たちに「和泉小へ移る」というような思いを抱かせないように注意しなければならない。
- ・一貫教育校では、中学校入学時に他の学区から希望して入学してくる生徒はいなくなってしまう。中学校入学までを見越したアピールが必要になる。
- ・理想として子供たちには大勢の中で学ばせたいと思いつつも、事実上、新泉小がなくなってしまうことに対して整理がつかない人が多いのではないか。

《平成21年11月29日(日)14:40～》

- ① 出席者:保護者
- ② 主な意見

- ・校内に設置されている特別支援学級や学童クラブは、小中一貫教育校内に移設されるのか。
- ・学校希望制度は、地域との連携に矛盾していると思う。また、学校間で児童・生徒数に差が生じる一因にもなっている。
- ・人数が少ない方の学校からすると、吸収されるようなイメージを持ってしまうと思うので、子供たち

への配慮が必要である。

- 長期的な視点で考えたときに、子供が増えることはないのか。
- 小学部にはそれなりに入学してくるだろうが、そのまま中学部に進学するのか不安が残る。
- 新泉小学区域内の泉南中学区域部分を方南小の方へ変更すると、新泉小が吸収されるイメージが強くなってしまう。

《平成21年12月6日(日)14:00～》

- ① 出席者: 地域関係者、保護者
- ② 主な意見

- 小中一貫教育校までの通学距離に不安を感じる保護者もいると思う。
- これまでの小中一貫教育の活動をどのように検証し、どんな成果があったと捉えているのか。
- 17年度に小中一貫教育の実施を決めたときから、施設一体型の小中一貫教育校を設置することが決定していたのか。
- 新泉小の跡地等はどのように活用していく考えなのか。
- 小中一貫教育校が開校するまでの間は、今までどおりに新入生を受け入れていくのか。

新泉小学校の保護者から寄せられた主な意見(意見用紙分)

【意見用紙提出期間】 平成21年11月29日(日)～12月7日(月)

No.	主な意見の概要	回答
1	部活動の充実や特徴ある放課後学習のカリキュラムなどを中学校に求める。	公立中学校をより魅力あるものとするために、現在、教育委員会で具体策等について検討を進めています。現在も和泉中では、人間関係を構築するためのセカンドスクールの実施や、図書館司書の配置による学校図書館の学習情報センター化への取組など、特色ある教育活動を展開しておりますが、今後、これらの取組の充実を含め、より魅力ある学校づくりに向けて取り組んでまいります。
2	小中一貫教育校の設置ではなく、教育百年の計により構成してきた六三制をさらに充実させることを優先すべきである。	教育制度は、子供の成長に適切に対応したものでなければならぬと考えます。義務教育六三制の制度化以降 60 有余年が経過した今日、学校不適應や学力低下など、課題も見え始めています。これらの課題解決のためにも、小中一貫教育校において、小、中学校の違いによる意義を大切にしつつ、義務教育9年間という枠組の中で、子供たちの連続した学びを保障した教育活動を行っていきたいと考えております。
3	中学校が私学又は都立一貫校に流れている現在のことを考えると、小中一貫ではなく、中高一	高等学校は東京都が所管するため、杉並区では、まず小中9年間の義務教育において、徳、知、体のすべての面でしっかりとした成長を支えていくことが重要であると考え、小中一貫教育校を

	貫にするという構想にはいかがか。	設置することとしております。
4	小中一貫教育校構想以前の問題として、「学校希望制度」や「適正配置」の見直しをしてほしい。	学校希望制度は、子供たちや保護者の学校選択のニーズに応えるとともに、学校が選ばれる立場に立つことで、魅力ある学校づくりを進めるために設けています。また、適正配置については、少子化が進む中で、次代を担う子供たちへよりよい教育環境を提供していくために進めているものであり、双方とも今後も必要であると考えております。ただし、必要に応じて見直しは行ってまいります。
5	幼稚園や保育園を卒園したばかりの子供たちと中学3年生の子供たちが同じ行事に参加したり、同じ建物の中で生活することを想像すると無理が生じると思う。	施設面では、階段、手すり、トイレの高さなど体格差に対する安全面の配慮などが課題としてありますが、先行自治体の例を見ても対応は可能であり、また特段の支障があるとは聞いておりません。逆に年齢の異なる児童・生徒が行事等を通して交流を深めることにより、年下への思いやりの気持ちや年上の人を尊敬する気持ち、互いを尊重し思いやる気持ちなどが育まれるものと考えております。
6	子供にはなるべく大勢の友達とめぐり会える環境で過ごしてもらいたいという思いがあるので、今回の計画をうれしく思う。	多くの友人関係を築きながら、児童・生徒がより健やかに成長できるように、統合前からの交流も意図的・計画的に進めていきます。
7	新泉小・和泉小、和泉中の3校で、5年前から小中一貫教育に取り組んでいるが、その成果はあまり多くなく、また、その成果についても十分に検証できてはいないように思う。	小中9年間を通じた成果の検証については、今後も行っていますが、これまでの5年間の取組についても、学力調査や意識実態調査、学校評価などにより幅広く検証を行っており、一部教科については、基礎学力が大幅に向上するなど、具体的な成果も現れつつあります。これらの成果などを踏まえ、昨年9月には「杉並区小中一貫教育基本方針」を新たに策定し、今後、全校で小中一貫教育を推進していくこととしたところです。
8	新しい学校が魅力的な学校になり、全国の模範となるような理想の小中一貫教育校が誕生できるよう、物事の進め方も新たな発想で行ってほしい。特に、今後小学生になる子供の保護者や教員の意見を反映したものとなるよう、情報を公開し、多くの関係者と十分議論を重ねてほしい。	5年以上にも及ぶ事業となりますので、これから入学する子供の保護者や教員を含め、多くの方々に必要な情報を提供しながら、議論を重ねてまいります。また進め方についても、関係者のご意見を十分にお聞きしながら進めていきたいと考えております。

9	教育の先走りによって、わかる子はどんどん進むが、わからない子はますますついていけなくなり、落ちこぼれや不登校にならないか心配である。	小中一貫教育校においても、教育課程は、文部科学省が定める学習指導要領に準拠して編成を行います。義務教育9年間において子供の成長に応じ確実に学力の向上や人間性の涵養等が図れるよう取り組んでまいります。
10	施設一体型の小中一貫教育校になった場合、特別支援学級は設置されるのか。	新泉小の特別支援学級については、小中一貫教育校に移設したいと考えています。特別支援学級に在籍している児童がスムーズに適応できるよう、今後、学校とも十分連携を図りながら進めていきます。 なお、中学校については、近隣の大宮中に設置している特別支援学級との関係などもありますので、今後設置の可否も含め検討のうえ方針を定めてまいります。
11	義務教育終了後の確かな進路保障とは何か。	児童・生徒一人ひとりの全人的な成長を目指した教育活動を小、中学校9年間で体系的、系統的に行うことによって、卒業後の進路を自ら考え、選択する能力を身に付けるということを表しています。
12	小学生と思春期を迎える中学生が、どちらも伸びのびと過ごせるような校舎の配置を考えてほしい。	児童・生徒が別々に伸びのびと過ごせる環境と、一緒に交流が深められる環境、それぞれが可能となるような教育環境などを整えていくため、校舎の配置や学年区分に対応したゾーニングなどについて、関係者のご意見を伺いながら検討してまいります。
13	和泉小・中の立地条件に不安を感じる。もともと水の出やすい所で、実際、過去何度も水害に遭っており、緊急時の避難場所としても不適切だと思う。	神田川・環状七号線地下調節池供用開始後の平成9年度以降は、平成17年9月に発生したゲリラ豪雨と称されている短期間での集中豪雨の場合を除き、この地域の水害による被害状況は確認されておりません。区では、平成17年の大きな浸水被害を教訓にして、都とも連携しながら一層の水防対策に取り組んでいますが、新校舎の建設時には、避難場所として不安が生じないよう耐震等の面もしっかりと対応してまいります。
14	新泉小の跡地は、どうなるのか。	新泉小の跡地等については、区民要望や地域の方々から寄せられるご意見なども踏まえ、今後検討してまいります。